

慢性頭痛における漢方治療

らいむらクリニック 院長

來村 昌紀

はじめに

頭痛における「慢性」の定義であるが、『国際頭痛分類 第3版』¹⁾では「痛みの用語では、慢性は3カ月を超える期間にわたり痛みが継続することを意味する。頭痛の用語では、原因となる障害自体が慢性である二次性頭痛（特に感染に起因するもの）においては同様の意味をもっている。（中略）反復性に生じる一次性頭痛においては頭痛（発作）が数日以上続くが3カ月には達していない場合であっても、慢性の用語が使用される。ただし、三叉神経・自律神経性頭痛は例外で、これらの頭痛では1年以上寛解することなく持続するまでは、慢性とはいわない」と定義されているが正直わかりにくい。今回は漢方を用いて奏効した症例の報告であるので、一次性頭痛あるいは鎮痛薬の使用過多による頭痛で、3カ月以上にわたって症状が連日ではなくても反復性に生じた例で、証に従い治療をした症例を提示させていただく。

漢方医学における慢性頭痛の考え方

漢方医学的にみた頭痛の原因には気血水の異常からくるもの、例えば、気鬱、気逆などからくる慢性の頭痛、瘀血などからくる肩こりを伴う緊張型頭痛や更年期症状を伴う慢性頭痛、水毒による

梅雨時や台風の季節などに悪化する頭痛などがある。また、五臓の失調によるものとして、ストレスなどで悪化する肝の失調や心の失調からくる頭痛、高齢に伴う腎の低下による頭重感や頭痛、脾の失調からくる頭痛などがある。今回はそれらの中から脾の失調による頭痛の症例をお示しする。

症例

患者 40代、女性。

主訴 頭痛、めまい、嘔気。

既往歴 特記すべきことはなし。

現病歴 以前から月に数回頭痛があり市販の鎮痛薬で治まっていたが、最近頭痛の頻度が増えて、ここ1カ月は市販の鎮痛薬を月に10日以上飲んでいる。また食欲がなく、体もだるく疲れやすい。ビアガーデンなどに行くとよく頭痛やめまいが起る。ひどいと頭痛とめまいで嘔吐し、寝込むことが月に数回ある。頭痛に伴う明らかな前兆はない。

身体所見 西洋医学的には食欲不振があるため、胃がんや胃潰瘍などの消化管の器質的疾患を除外するため、消化器科にて胃カメラを施行するも軽い胃炎の所見のみ。だるさや疲れやすさがあったため血液検査を施行したが、貧血なし、肝機能障害なし、甲状腺機能も正常であり特記すべき異常所見はない。頭部CT、MRI、MRAでも異常所見